

安全データシート (SDS)

製造者情報

会社名	株式会社エーゼット
所在地	大阪市鶴見区茨田大宮 1-7-59
担当者	営業部
電話番号	06-6915-3501
FAX番号	06-6915-1202
緊急連絡先	所在地と同じ
作成日	2015/12/04

製品名: AZ コンプレッサーオイル

危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

急性毒性 (吸入: ミスト)	区分 4
皮膚腐食性、刺激性	区分 3
眼に対する重篤な損傷、刺激	区分 2B
生殖細胞変異原性	区分 2
特定標的臓器、全身毒性 (単回暴露)	区分 2 (肺)
特定標的臓器、全身毒性 (反復暴露)	区分 1 (肺、皮膚)

GHS ラベル要素



注意喚起語 危険

危険有害性情報

軽度の皮膚刺激、眼刺激
 吸入すると有害(ミスト)
 遺伝性疾患の恐れ
 肺の障害の恐れ
 長期又は反復暴露による肺・皮膚の障害

注意書き

応急措置 p. 2 に記載
 取り扱い p. 2 に記載
 保管 p. 2 に記載
 廃棄 p. 3 に記載

組成、成分情報

成分	鉱油、添加剤
化学式または構造式	企業秘密のため非公表
CAS No.	企業秘密のため非公表
国連番号	非該当
消防法	第 4 類第 4 石油類 危険等級 III
労働安全衛生法	通知対象物: 鉱油 (90~100%)
PRT法	非該当

応急措置	吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要なら医師の手当を受ける。
	飲み込んだ場合	: 口をすすぐ。無理に吐かせない。医師の手当を受ける。
	眼に入った場合	: 水でよく洗う。コンタクトレンズを装着している場合固着してなければ外す。十分、洗浄後、医師の手当を受ける。
	皮膚にかかった場合	: 水と石けんで十分洗う。衣類が濡れた場合、直ちに着替える。濡れた衣類を再着用する場合は洗濯する。腫れが生じたり皮膚への刺激が強い場合、医師の手当を受ける。

火災時の措置	消火方法	: 速やかに容器を安全な場所に移す。 保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用する。 風上から消火する。 初期の消火には下記の消火剤を用いる。
	消火剤	: 霧状の強化剤、泡粉末または炭酸ガス消火器。 棒状の水を使用しない。

漏出時の措置	保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用する。 風上から作業する。 砂、おがくず、ウエス、新聞紙等に吸い込ませて、回収する。 土壌、河川、湖沼、海、下水道等に流入しないように注意する。
--------	---

取扱いおよび保管上の注意	取り扱い	製品の使用中、飲食および喫煙しない。 熱、火花、火炎、高温のものから遠ざける。 屋外または通気性の良い場所で使用する。 常温で取り扱い、その際、吸入、接触しないよう必要に応じて保護具を着用する。 屋外または通気性の良い場所で使用する。 使用後は手洗いを十分する。
	保管	使用中も水分、異物が混入しないよう、できるだけ密閉する。 屋内の直射日光が当たらない涼しい場所で保管する。 水分、異物が混入しないよう、必ず密閉する。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触、同一場所での保管を避ける。

暴露防止措置	管理濃度	日本産業衛生学会(2010年度)	ACGIH(TLV-TWA)(2010年度)
鉍油	設定されていない	3mg/m ³	5mg/m ³
設備対策	発生源の密閉化、または排気装置を設ける。 身体洗浄、うがいができる洗浄設備を設置する。		
呼吸用保護具	必要であれば防毒マスクを着用する。		
保護眼鏡	必要であれば着用する。		
保護手袋	長時間、または繰り返し接触する場合、耐油性のものを着用する。		
保護衣	長時間にわたって取り扱う場合、または濡れる場合には耐油性の長袖作業服等を着用する。		

物理／化学的性質	外観等	褐色液体、臭気弱い
	初留点	250℃以上
	揮発性	なし
	密度	0.88g/cm ³ (15℃)
	溶解度	水に不溶
	流動点	-12.5℃以下

危険性情報	引火点	200℃以上
	発火点	データなし
	爆発限界	1.0～7.0%(推定値)
	可燃性	あり
	自然発火性	なし
	酸化性	なし
	自己反応性	なし
	安定性	安定
	反応性	強酸化剤との接触をさける。
有害性情報	刺激性(皮膚・眼)	長期又は繰り返しの接触により脱脂症状、炎症、痛み等が生じる恐れがある。
	急性毒性	経口 ラット LD ₅₀ 5000mg/kg 以上 経皮 ラット LD ₅₀ 5000mg/kg 以上 吸入(ミスト) ラット(4h) LD ₅₀ 5mg/L
	慢性毒性	有用なデータなし
	発がん性	OSHA による評価：使用している基油は高度精製基油であり、IARC ではグループ 3 に分類(人に対する発がん性について分類できない) EU による評価：発がん性物質としての分類は適用される必要はない。
	催奇形性	有用なデータなし
	生殖毒性	有用なデータなし
	その他	飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。 ミストを吸入すると気分が悪くなることもある。
環境影響情報	魚毒性、蓄積性、分解性	いずれも有用なデータなし
廃棄上の注意	廃棄物処理法に従って自ら処理するか、産業廃棄物処理業者、または地方公共団体がその処理を行っている場合、そこに委託して処理する。	
輸送上の注意	輸送時には「取扱いおよび保管上の注意」の項に記載した内容に留意するほか容器に漏洩、破損のないことを確かめ、荷崩れを起こさないよう確実に積み込む。関連法令に従った措置も講じる(品名、数量、火気厳禁の表示、消火装置の設置積み重ねの高さは3m以下にする等。)。第1類及び第6類の危険物及び高压ガスと混載しない。	
適用法令	消防法・・・・・・・・・・・・・・・・・・第4類第4石油類 危険等級Ⅲ 水質汚濁防止法・・・・・・・・・・・・・油分排出規制 5mg/L (n-ヘキサン抽出分として) 下水道法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・鉱油類排出規制 5mg/L (n-ヘキサン抽出分として) 海洋汚染防止法・・・・・・・・・・・・・油分排出規制 (原則禁止) 廃棄物の処理および清掃に関する法律・・・産業廃棄物規制 (拡散、流出の禁止) 労働安全衛生法・・・・・・・・・・・・・・・・・・通知対象物：鉱油	
参考文献	1. ITRC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUME 33 2. 許容濃度の勧告 (2010) 日本産業衛生学会 産業医学 3. 製品安全データシートの作成指針 (日本化学工業協会) 4. GHS 対応による混合物 (化学物質) の作成手法の研修テキスト (改訂版) (中央労働災害防止協会) 5. 各原料 SDS	

注意事項

この安全データシート(SDS)は通常の取り扱いを想定して作成したものです。
SDS は安全の保証を約束するものではありません。
取扱者は状況に応じて使用してください。
SDS の内容は新たな知見により予告なく変更することがあります。
